

■2012年度 事業報告

[プロローグ]

当法人の設立の目的を今一度確認し、持続可能な組織となれるよう基盤整備に取り組むことを最優先とする年とした。会員と交流し情報交換を行うこと、失敗を恐れず実験的な事業に取り組むこと、スタッフやボランティアと協働して事業を推進すること、事業の参画者となるべき次世代の人材を育成していくこと、組織の経営状況を意識できるような財務の方法を確立すること、データベースの構築やウェブサイトのリニューアル・パンフレットの制作などに取り組み活動を広く社会に告知すること、そして支援者や会員を募っていくことが目標であった。

新たな事務局体制で9ヶ月たったが、交流・実践・研修等には積極的に取り組んできたと考える。しかし、組織の運営の基盤をつくるための事業、会員制度の見直し、寄付などのマネジメントは2013年度が勝負となる。

1. 当法人の目的（定款「目的及び事業」より）

この法人は、障害のある人をはじめ、生きにくさを抱えている人たちと共に、主に、障害の種別や有無をこえて、芸術文化活動を通して、自らを自由に表現する場やしぐみをつくること、作品を発表したり、販売する環境を整えること、美術作品や舞台芸術作品などにさまざまな手段を用いてアクセスするための機会と環境を整えることなどの事業を行い、誰もがそれぞれの違いを尊重しあい、その存在が認められる、真の意味での豊かな社会の実現に貢献、寄与することを目的とする。

2. 2012年度の重点項目

- 組織の基盤をつくるための総務部門の整備に取り組む。
- 企画事業では、これまでの事業の見直しを行い、新しい仕組みや事業を実践する。
- 運動性と事業性を両立した、運営方針を確立するための準備年とする。

運動性の視点として

- ・エイブルアート・ムーブメントの発信基地として、さまざまな人たちと協働した取り組みを開発する（展覧会、セミナーなど）
- ・新しい美と新しい知の探究を愉しみ、研究会やセミナーを開催する。
- ・次世代の人材を育成していくために、非常勤スタッフ、インターン、ボランティアなどの参加を促す。

事業性の視点として

- ・エイブルアート・カンパニー事業の推進に力をいれる。
- ・「Good Job！ 振興会」設立にむけてのプロジェクトに取り組む。

■事業内容

[総務]

1. 会議等の業務

(1) 第2回総会の開催

日時：2012年6月23日（土）10：00～12：00

会場：A/A gallery 内（東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331）

- 2011年度事業報告（案）・決算報告（案）の承認
- 2012年度事業計画（案）・予算（案）の決定
- 定款の変更、理事の変更、新体制紹介 ほか

正会員総数 125 団体／個人のうち、64 団体／個人が出席（うち書面表決者 54 名）と定款第 27 条に規定する総会の定足数を満たしており、総会は成立。また、2011 年度事業報告（案）および決算（案）、2012 年度事業計画（案）および予算（案）、定款の変更および理事の変更に関する提案などについて全員意義なくこれを承認した。

- ◇ 成果：総会に先立ち開催した、宮城県・山元町共同作業所「工房地球村」施設長・田口ひろみさんによる講演「生きる力の取り戻し～東日本大震災とアートの力」は、エイブルアートのミッションや関連事業を知っていただく好機になった。
- ◇ 課題：会員の出席がわずか 10 名であり、書面評決を含めても総会成立の定足数がぎりぎりであった。NPO 法人の総会や会員の役割について理解していただくための努力が必要である。

(2) 理事会の開催

◎第3回 2012年5月26日（土）14：00～17：00

会場：AFT オープンスペース（B105）

（東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331 地下1階）

- 2011年度事業報告（案）・決算報告（案）の承認
- 2012年度事業計画（案）・予算（案）の承認
- 定款の変更、理事の変更、新体制の移行について

◎第4回 2012年10月25日（木）18：00～20：00

会場：AFT オープンスペース（B105）

- 2012年度 事業の中間報告および収支計算書の上半期決算と補正予算案
- 役員人事について（報告と承認）
- 会員増強運動について（提案と協議）
- 次年度事業の検討

◎第5回 2013年4月17日（水）18：00～20：00

会場：A/A gallery 内

- 2012年度 事業報告（案）承認について

- 2012 年度 収支計算書（見込み）について
- 2013 年度 事業計画（案）について
- 2013 年度 収支計算書（予算案）について
- 役員人事の改選について
- 第3回通常総会について

2. 会員に対する業務

- 会員の入会、継続、休会に伴う業務
 - 「第2回総会」の案内と報告（2011 年度事業報告・決算書および 2012 年度事業計画・予算書を送付）
 - ニュースレターと各種事業案内を送付（6 月、9 月、10 月、12 月、2 月）
 - 会員に対するアンケートを 10 月に実施
- ☆ 成果：会員用の登録フォーマットを整備した。会員参加または活動への参加につながるよう、スタッフが名刺交換した人たちのデータを一元化し、エイブルアート事業のメールマガジンへの登録や各種事業を毎月案内している。とくにセミナー等の参加者が安定してきているのはこの効果があると考えている。
- ☆ 課題：①会費の支払いのお願いは年 2 回（6 月・12 月）。しかし納入率は平均 45%と低い（審議資料 7-2）。②「NPO 法人の会員＝議決権を有する役割」と「活動への参加者」との整理、また会費と寄付のあり方の整理は 2013 年度のなかで整理していく。③データベースの登録方法はこの①②と連動すべきものであり、2012 年度に結論がでていないため 2013 年度の持ち越しとなる。

*** 会員数の推移**（6 月と 10 月のデータとのあいだにずれがあるが 4 月 10 日時点が正）

2012 年 6 月 23 日現在	2012 年 10 月 24 日現在	2013 年 4 月 10 日現在
会員数 125 人／団体 内訳：法人会員 1、団体会員 1、個人会員 123	会員数 124 人／団体 <u>退会者 6、新規入会者 5</u> 内訳：法人会員 1、団体会員 1、個人会員 122（うち理事監事 20）	会員数 129 人／団体 <u>退会者 9、新規入会者 6</u> 内訳：法人会員 1、団体会員 1、個人会員 127（うち理事監事 17）

*** 年会費制**（入金日より 1 年ごとに更新）

- 法人会員・・・1口 10 万円（法人格のある団体：会社法人・社会福祉法人など）
- 団体会員・・・1口 5 万円（法人各をもたない団体：共同作業所など）
- 個人会員・・・1口 1 万円

3. 経理などの業務

- 資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明らかにする。
 - 現金等の動きについて記録し、月次ごとに資金の動きを明確にする。
 - 税務に関する業務として、法人税・源泉徴収税・消費税の税務関連の業務を行う。
 - 業務を財団法人たんぽぽの家（奈良）に委託する。
- ◇ 成果：小口現金の管理（逐次）、ギャラリー&ショップ売上精算（企画毎）、会計担当者（奈良）への伝票等の送付（毎月）を行った。10月には会計担当者を招き、スタッフ全員が経理のあるべき基準について指導を受けたため、全体的には改善されてきている。
- ◇ 課題：2011年度の未払金の処理などが年度末までに持ちこした。エイブル・アート・ジャパン理事会に応じ、半期に一度のまとめとなった。法人の事業規模に応じ月次ごとの収支計画や会計報告が必要になる。

4. 労務管理などの業務

- 法人に関連する業務を行うスタッフが円滑に仕事を進めることができるよう労務面等において配慮する。
 - 法人がスタッフを雇用していく時期を見越し、各種規定などを整備していく。
- ◇ 成果：①毎日・毎月の人や事業の動きを把握できるようボードを設置し、エイブルアート事業全体の動きがみえるようにした。②勤務スケジュールの調整をスタッフに一任し、各人の勤務状況を見えるようにして互いに休みをとれるように改善した。③固定ボランティア2名、インターン9人の参加により事務所に活気も生まれた。
- ◇ 課題：事務局3人体制のうち、スタッフ2名は病気等理由により週4日勤務であるため、バイトを1名雇い入れた。財団法人たんぽぽの家を本部とし、エイブルアート・カンパニー事業によりスタッフ2.5名分、東日本大震災関連事業の兼務としてスタッフ1.5名分の雇用を確保してきた。今後の運営のための事業等を検証する必要がある。

5. 総務関連などの業務

- 業務運営に必要な届出業務を行う。
 - 当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応を行う。
- ◇ 実施内容：
- NPO法人としての東京都への2011年度事業報告・収支報告書の提出（6月25日）
- 定款の変更の届け出（6月26日→11月27日に認証）*ただし法制の変更に伴い2013年度の総会で記述を5カ所あらためるよう指導を受けた。
- 代表理事以外の理事の代表権の喪失に関する届け出（9月26日）
- 印鑑登録人の変更（10月9日）

[企画事業]

1. A/A gallery 事業

運営のサイクルを変更し、木～日のみの開廊（11:00～19:00）とした。「企画事業」と関係者に対する「貸し事業」とに分別し、企画事業の6本については財団法人たんぼぼの家に委託した。

- ◇ 成果：改修工事でスペースを拡張したため、グループ展やインスタレーション、商品見本市、セッションなど多彩なプログラムを実施することができた。とくに、セミナーやトークイベントを行えるようになったことで、活動に関心をもつ人材や学生のリピーター訪問が増えている。
- ◇ 課題：A/A gallery で過去2年紹介してきた作家の原画販売の窓口としてA/A gallery のウェブサイトを立て上げる予定であったが、法人本体のウェブサイトの構築を優先し2013年度に持ち越す。

◎企画① シリーズ「存在と生活のアート」

「日常性」「関係性」をテーマに生まれる表現を「存在と生活のアート」としてとらえ直し、新しいアートムーブメントとして発信した。2012年度は、シリーズでVol.1～5までを開催。西日本の活動や作家を紹介することができた。業務を財団法人たんぼぼの家が担当した。

● Vol.01 「佐藤は見た!!!!!!～誰が何をどう見ているか、どうしてあなたは言いきれぬのかしら？」(第16回企画展)

福祉施設で日々起こるものごとを、わたしたちはどうみているのか？浜松市にある施設「アルス・ノヴァ」の豊かな日常を支えている職員の個人性に根ざした視点を、切り取り、伝える。

会期：2012年9月20日（木）～9月30日（日）

協力：NPO法人クリエイティブサポートレッツ（静岡）

● Vol.02 「アートと暮らし～誰もが芸術家～」(第17回企画展)

暮らしの中での表現や人間関係を大切にす高知の「アートセンター画楽」で生まれた作品を紹介。作家・家族や支援者が高知からギャラリーを訪問してくれた。

会期：10月4日（木）～10月14日（日）

協力：アートセンター画楽（高知）

● Vol.03 「『あいだ』からうまれるアート～アートリンクの実験～」(第18回企画展)

奈良県障害者芸術祭で実施された「アートリンク・プロジェクト」で生まれた2組の作品を紹介。

「どうしょんど」 森口敏夫 × 山村幸則

「金曜日の午後」 藤田陽司 × 松井智恵

会期：2012年10月18日（木）～10月28日（日）

協力：奈良県障害者アート創出事業実行委員会

● Vol.04 「JURIX WORKS」 (第20回企画展)

1日4回のラジオ体操、紅茶づくり、「ニュース」書き、葉のカラ集め、鉛筆の削りカス集め、ラジオ深夜便を聞くこと…etc。全身芸術家・伊藤樹里の生活と表現を見せる展覧会。

会期：2013年1月10日(木)～1月20日(日)

協力：たんぽぽの家アートセンター-HANA

● Vol.05 「SUPERPOSITIVE～世界への愛着～」 (第21回企画展)

魂をこめて作る小さな箱、儀式のように画用紙の上に並べられる画材。なんとも名付け得ない、障害のある人の行為を「超肯定」という視点で捉え、2011年に京都で話題になった展覧会を紹介。

会期：2013年3月14日(木)～3月24日(日)

協力：宮下忠也

◎存在と生活のアート関連企画「障害とアート研究会」

「障害とアート」に関するさまざまなテーマを深める研究会。施設職員、障害のある人、研究者、学生など立場の異なる人たちが集まり議論を交わすために「存在と生活のアート」にあわせて実施した。

● 第1回 Guest：鈴木一郎太 (NPO法人クリエイティブサポートレッツ ディレクター)

2012年9月20日(木)

● 第2回 Guest：山村幸則 (アーティスト)

2012年10月27日(土)

● 第3回 Guest：宮下忠也 (アートディレクター)

2013年3月14日(木)

◎企画・協同事業

参加・協働を意識し、理事・会員やネットワーク団体とともに共同で運営した。

● 光島貴之 「さわる(ぼくはなぜ、色を使うのだろう?)」 (第15回企画展)

理事である光島貴之さんの個展(銀座)にあわせて同時開催。ラインテープ&カッティングシートから触覚コラージュへの変遷を追う展覧会。創作ワークショップでは、作家およびボランティアの運営により2回開催。多くの人に参加し、見える人・見えない人の世界を共有した。

日時：2012年8月30日(木)～9月2日(日)、9月6日(木)～9月9日(日)

創作ワークショップ1：9月2日(日)「音と言葉で感じるまちを作ってみよう」

参加人数：18人(見える人14名、見えない人・見えにくい人4名)

創作ワークショップ2：9月9日(日)「触って“かわいい”を見つけよう」

参加人数：15人(見える人13名、見えない人・見えにくい人2名)

● 「にこにこトマト」展～京都大学病院小児科のボランティアグループの活動から（第19回企画展）

「楽しく豊かな時間」をプレゼントしている「にこにこトマト」。1995年からほぼ毎日、京都大学小児科に入院中の子どもたちに、ワークショップを開催しています。子どもや家族、スタッフの声が聴こえてくるような写真や日々の活動記録を紹介した。東京での活動紹介がはじめてということで多くの来場者を迎えた。業務を財団法人たんぽぽの家に委託した。

会期：2012年11月1日（木）～11月11日（日）

● A/A gallery 特別企画展「Christmas Gift Collections」

会期：2012年12月1日（土）～12月24日（月・祝）

<出展施設・団体>

川口太陽の家/工房集（埼玉県川口市）／アトリエ jet's（神奈川県川崎市）／アートかれん/メープルかれん（神奈川県横浜市）／地域作業所カプカプ（神奈川県横浜市）／結の会（東京都八王子市）／studio COOCA（神奈川県平塚市）／デイセンターウィズ（埼玉県嵐山町）／クラフト工房ラ・まの（東京都町田市）／ピースプラント（福岡県）他 個人4名

*同時開催：エイブルアート・カンパニープロモーション期間限定ショップHUMORA

● エイブル・アート・アワード 花崎昇平展『Kiss』

「第14回エイブル・アート・アワード」の展覧会支援部門の入選者展である花崎昇平展『Kiss』を巡回した。詳細は、9. 助成事業に記載。

会期：2013年1月31日（木）～2月17日（日）



◎貸し事業（関係者を対象）

● 「ダブディビ・デザイン exhibition vol.2 2012 summer in Tokyo」

福祉とビジネスをデザインでつなぐ株式会社ダブディビ・デザインの新商品の東京巡回展。

日時：2012年8月10日（金）～8月12日（日）

主催：株式会社ダブディビ・デザイン（神戸）

協力：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

● メディア4Youth 創作展「ひとりで わくわく いっしょに わくわく」

会期：2013年3月26日（火）～3月31日（日）※初日は16時から・最終日は16時まで

主催：メディア4Youth

協力：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

メディア4Youthは、様々な生きづらさを抱える女性と子どものための協働的表現活動で、主な参加団体は、out of frame(表現系NPO)、サバイバルネット・ライフ(栃木県小山市でDV被害者支援を行う認定NPO)、ダルク女性ハウス(薬物依存症の女性のための回復施設)、杉並中三勉強会(杉並区の中高校生の居場所)。活動の中心は月一回の表現ワークショップで基本的にクローズドで行

うが、社会とのゆるやかなつながりを作ることも重要とし、この創作展も企画された。展示と最終日の「わくわく Party」による参加者の充実感や変化は大きく A/A gallery の提供を大変感謝されたことを特記する。

◎その他 原画販売・外部出展に対する作業

● アート・プリント・ジャパン（以下、APJ） 企画展への原画手配

会期：8月15日（水）～11月 @APJ 銀座三越店、APJ 芸術劇場店

出展作家：太田宏介、奥野恵市、渡邊鮎彦

会期：8月18日（土）～10月 @フォーラムギャラリー、APJ 立川伊勢丹店

出展作家：尾崎文彦、中村真由美、簗田 利博

● （株）アールアンテル 原画販売

第13回エイブル・アート・アワード受賞者である星野祥代さんの作品6点を、（株）アールアンテルを通じて東京都健康長寿医療センターへ納品

2. A/A shop 事業

- A/A gallery 事業と連動し、期間限定で商品を取り扱った。
- 商品の仕入れ、管理をエイブルアート・カンパニーに委託した。
- 書籍の仕入れ・販売のみ当法人の扱いとした。

3. エイブルアート・スタジオ事業

◎運営委員会による事業

● アトリエ・ポレポレ

ファシリテーター：サイモン順子

開催日：毎月第2、4土曜日午後 6月以降8回開催

参加費：年会費5,000円 1回2,500円

会場：アーツ千代田3331 B105（レンタルスペース）

登録メンバー：24人

● エイブルアート芸術大学

ファシリテーター：中津川浩章

開催日：毎月第2日曜日午後 6月以降9回開催

参加費：年会費3,000円 1回2,500円

会場：アーツ千代田 3331 B105（レンタルスペース）

登録メンバー：17人

◎協働事業

☆ 成果：活動をするなかで共有したいテーマが生まれた際に、そのテーマを個別に編集し小さなサロン活動を実施した。エイブルアート事業につながる多彩な方たちと出会う場となっている。

● トークイベント「ドンパチとゲイシャ～カフェ文化をデザインする～」

開催日：10月3日（水）19：00～21：00

会場：A/A gallery 内

参加者：約40名

主催：多摩美術大学芸術人類学研究所

協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

カフェバッハ（東京都台東区日本堤）の田口護氏のコーヒー哲学と活動を紹介しながら、美術文明史家の鶴岡真弓さんを案内人として、カフェ文化の意味と価値を語り合うトークイベントが開催された。エイブル・アート・ジャパンの活動紹介をする機会もいただいた。

● カフェトーク「エイブル・アート・アワードのこれまでとこれから」

開催日：2013年2月20日（水）19:00～21:00

会場：A/A gallery 内

参加者：約30名

「エイブル・アート・アワード」の14年間の取り組みを振り返りながら障害のある人たちとその表現を取り巻く状況の変化を考える集いとした。エイブル・アート・アワード選考委員の長崎剛志さん（造園家）、中津川浩章さん（美術作家・アートディレクター）、岡崎智美さん（横浜美術館主任エデュケーター/花崎昇平展コーディネーター）のほか、アワードの関係者である水川史生さん（デザイナー）、星野祥代さん（第13回受賞者）、光島貴之さん（第1回受賞者・ただしスカイプ参加）らも参加した。

主催：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

● 『福祉施設発！こんなにかわいい雑貨本』出版トークイベント

開催日：3月10日（日）19:00～20:30

会場：A/A gallery 内

参加者：約30名

主催：河原由香里・太田明日香（ともに編集者）

協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

全国各地の福祉施設でつくられた高品質で、おしゃれな雑貨を掲載したカタログ本「福祉施設発！こんなにかわいい雑貨本」の著者の一人、太田明日香さんによるトークイベントを開催した。

4. エイブルアート・カンパニー事業

- ◇ 成果：設立6年目を迎え、登録アーティストは全国20都府県から73名、登録作品は約6,800点になった。アパレルとの取引は増加している。
- ◇ 課題：全体的な著作権使用料の売上は伸び悩みである。そのため、利益率が最も高い印刷物等の取引を増加させるために、大手ストックフォトや広告代理店と契約をすすめている。



(1) 基盤整備

- 選考会により選ばれたカンパニーアーティスト（登録作家）が7名デビュー
秋穂治巳さん、Ackeyさん、外尾友樹さん、Máscara Contra Máscaraさん、清井了支さん、鶴川弘二さん、与那嶺光雄さん。
- ウェブサイトの改訂～かきおろし作品・作家情報の掲示

(2) 著作権使用（特記のみ）

- フェリシモから多彩な製品発売
通販会社の「フェリシモ」との仕事がスタートし、多数の商品が発売された。尾崎文彦さんの猫柄のアームウォーマー、岩崎菜摘子さんのミニバッグなど、アーティストの絵が存分に生かされた商品は現在も好評発売中。
- 高島屋 全国4店舗の催時に向けた共同製品開発
全国4店舗の高島屋で、期間限定ショップを開催。高島屋とエイブルアート・カンパニーのコラボレートとして、傘、エプロン、ストール、ハンカチなどを制作。
- 描きおろし作品による点字カレンダーの制作
福岡に本社をもつ「ゼネラルアサヒ」から、昨年に引き続き点字カレンダーが制作された。テーマは「季語」。12ヶ月の季語や絵をアーティストが描きおろした。
- スtockフォトの大手・株式会社アフロと契約
22人の作家の登録を行い、メディアや印刷物などでの使用の実績を拡大していく。
- 株式会社DHCからのアパレル製品の発売（発売まで内部秘）
自社ブランドの製品(Tシャツ)にカンパニーアーティストの作品使用がすすめられている。2013年春夏に販売。

(3) 商品販売・展覧会(特記のみ)

- 商品販売 期間限定ショップ「HUMORA ユーモラ」
会期：4月27日（金）～5月6日（日）
会場：パルコ仙台店 4階 吹き抜けスペース
- 商品販売 「きもちのこうかんプロジェクト」 西武東戸塚店
会期：4月28日（土）～5月6日（日）

会場 西武東戸塚店 4階 洋品小物売場 エスカレーター前イベントスペース

● 展覧会 「デザインとアートの現場から」

デザイン界、アート界の両方で活躍する人気クリエイターたちの、アートワーク&プロダクトアート展に3人の作家（尾崎文彦、中村真由美、菱田利博）が出展。

会期：2012年8月18日（土）～9月2日（日） 10:00～20:00 最終日17時まで

会場：東京国際フォーラムB棟1階 フォーラム・アート・ショップ内ギャラリー

● 商品販売 「ハッピーバード」

鳥をモチーフにしたアートワーク&プロダクト展に3人の作家（太田宏介さん・奥野恵市さん・渡邊鮎彦さん）が出展。

会期：8月15日（水）～20日（月）

会場：銀座三越 8階 銀座スタイル シンプリーハート

※8月30日（木）～3週間程、東京芸術劇場（池袋）の1階シアターアートショップに巡回。

● 商品販売 「HAND TO HAND—手から手へ—」

リニューアルした東京都美術館のミュージアムショップで、エイブルアート・カンパニーの商品を販売。カンパニーアーティストの結城周平さんがショップの黒板にライブペインティング。

会期：2012年9月26日（水）～10月25日（木）

会場：東京都美術館 ミュージアムショップ

● 高島屋 全国4店舗 cocoro no wa（ココロノワ）～優しいアートのある暮らし～

全国4店舗の高島屋で、期間限定ショップを開催。高島屋とエイブルアート・カンパニーのコラボ商品などが発売。東京店と新宿店では、西荻窪のセレクトショップ「マジェルカ」、横浜店は「スローレーベル」、京都店では「たんぽぽの家アートセンターHANA」が特別出店。

会期・会場 10月3日（水）～16日（火）

高島屋新宿店／ウエルカムゾーン6階 POP UP スクエア

高島屋京都店／4階エスカレーター横特設会場

会期・会場 10月3日（水）～9日（火）

高島屋東京店／1階ヒットプレイス

高島屋横浜店／1階ヒットプレイス



● 展覧会 「タイヨウプロジェクト原画展」

大阪のVisq（ビスキュ）でタイヨウプロジェクトの原画を展示・販売した。

会期：2012年10月19日（金）～11月30日（金）

会場：Visq LOFT

● 期間限定ショップ「HUMORAの森 ～つながるプレゼント～」

衣・食・住の3つのテーマで商品をセレクト。週変わりで店頭のメインディスプレイを変えて、それぞれのテーマを強く打ち出した。関東の施設や大学生、ボランティアグループとワークショップやカフェも運営。関東でのネットワーク構築も意図した。

会期：12月1日（土）～12月24日（月・祝）



会場：A/A gallery

(4) その他

●基本のスキンケア&メイク講座～定例講座

働いている、または働く準備をしている障害のある人を対象にした講座のシリーズ。

日時：第18回4月1日(日)、第19回5月20日、第20回6月17日(日)、第21回7月15日(日)、第22回9月16日(日)、第23回10月14日(日)、第24回11月11日(日)、第25回12月9日(日)、第26回3月17日(日)

会場：ハーバーサロン(東京都千代田区有楽町1-12-1)

参加費：1,050円(スキンケアセットとリップ、オリジナルパンフレットつき)

●基本のスキンケア&メイク講座～出張講座

日時・会場：

8月27日(月) 社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会(愛知県名古屋市) 男女20名

9月5日(水) 就労移行支援事業所 フォレスト(東京都葛飾区) 男女20名

10月20日(土) 社会福祉法人よるべ会障害者支援センターぼけっと(神奈川県小田原市) 男女15名

12月5日(水) 渋谷区恵比寿保険相談所(東京・渋谷区) 男女合わせて約10名

2月16日(日) サンシティ平塚(神奈川県・平塚) 男女合わせて12名



5. 鑑賞支援事業

(1) 「みんなの美術館プロジェクト」

2008年よりエイブル・アート・ジャパンと横浜市民ギャラリーあざみ野が中心となって立ち上げた事業。障害のある人をはじめ誰にとっても快適で使いやすいミュージアムを目指して、インクルーシブデザインの手法を取り入れたワークショップを開催し、課題の抽出と整理、解決のためのアイデア提案を行っている。2009年より3年間にわたって花王の助成を受け本年度が最終年となる。現在、集大成となる「デザインノート」の編集とワークショップ&トークイベントの準備を行っている。

組織形態は実行委員会形式をとり、エイブル・アート・ジャパンは中核メンバーのひとつ。

助成：花王・コミュニティミュージアム・プログラム2011

● 実行委員会および作業部会開催状況：日時と会場

5月24日 実行委員会 横浜市民ギャラリーあざみ野

6月4日 実行委員会 横浜市民ギャラリーあざみ野

6月24日 実行委員会 横浜市民ギャラリーあざみ野

6月25日 実行委員会 横浜美術館

7月9日 実行委員会 横浜美術館

8月1日 実行委員会 横浜美術館

- 8月12日 作業部会 横浜美術館
- 8月18日 作業部会 エイブル・アート・ジャパン
- 8月27日 作業部会 エイブル・アート・ジャパン
- 8月30日 作業部会 横浜市民ギャラリーあざみ野
- 9月19日 実行委員会 横浜美術館
- 9月28日 作業部会 横浜市民ギャラリーあざみ野
- 10月11日 作業部会 上野（個人邸）
- 10月15日 実行委員会 横浜美術館

● **ワークショップ&トークイベント**

「多様な人々をつくる～ミュージアムのインクルーシブデザイン」

日時：10月28日（日）

会場：横浜市民ギャラリーあざみ野

主催：美術館×ミュージアム×デザイン実行委員会

共催：NPO法人エイブル・アート・ジャパン、横浜市民ギャラリーあざみ野

● **「みんなの美術館プロジェクト デザインノート」**

10月28日発行 PDF形式でWEBでの公開

（2）「美術と手話 ろう者をつくる美術鑑賞プログラムと美術用語の手話化事業」

これまでほとんどサービスやプログラムがなかった聴覚障害者の美術鑑賞に焦点をあてたプロジェクト。2011年2月に「美術と手話を考える会議」を立ち上げ、2012年1月よりファイザープログラムの助成を受け事業を本格化した。美術鑑賞プログラムを策定・デザインするプロジェクトと、美術用語の手話化を進めるプロジェクトの2本を進行した。

助成：2011年度ファイザープログラム 心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援

● **実行委員会開催状況：日時と会場**

- 4月26日 プログラム化第3回委員会 エイブル・アート・ジャパン
- 6月3日 プログラム化第4回委員会&鑑賞会 世田谷美術館
- 6月16日 手話化第1回委員会 アーツ千代田 3331
- 7月22日 手話化第2回委員会 横浜美術館
- 7月31日 プログラム化第5回委員会 エイブル・アート・ジャパン
- 8月26日 手話化第3回委員会 早稲田（団体事務所）
- 8月29日 プログラム化第6回委員会 東京都現代美術館
- 9月14日 手話化第4回委員会 くにたち中央図書館
- 9月21日 プログラム化第7回委員会 多摩障害者スポーツセンター
- 9月27日 手話化第5回委員会 武蔵野美術大学
- 10月5日 プログラム化第8回委員会 多摩障害者スポーツセンター
- 10月7日 プログラム化第9回委員会&鑑賞会 東京都現代美術館
- 10月19日 手話化第6回委員会 くにたち中央図書館

11月8日 手話化第7回委員会 国立公民館、くにたち中央図書館
11月16日 プログラム化第10回委員会多摩障害者スポーツセンター、くにたち中央図書館
11月21日 プログラム化第11回委員会 国立市公民館
1月19日 創作手話ビデオ撮影 アーツ千代田 3331
1月20日 ギャラリートークマニュアルビデオ撮影 アーツ千代田 3331
3月31日 「美術と手話」ホームページ公開

● 事業報告会及び鑑賞会：

日時：12月2日（日） 会場：横浜美術館

● 委員会構成メンバー：

プログラム化委員会＝聴覚障がい・手話関係者2、美術関係者2、研究者2
手話化委員会＝聴覚障害者3、手話関係者3、美術関係者4

6. 企画制作事業

● **第3回埼玉県障害者アートフェスティバル「障害者アートマネジメントセミナー初級編」**

これまで過去3回にわたってセミナーを開催し、回を重ねるごとにその内容を進化させてきた。しかし、施設職員間でアート化の基本的な理念を共有することができないままに、セミナーの内容が高度化しており、毎回違う職員が参加し常に原点を確認できるような「初級編」を継続的に開催してほしいという意見があがった。そこで実行委員会では初級編を開催することとした。県側の提示した条件は、1日で簡完結する内容であること、講師は近県の人とすること、参加者は話しを聞くだけでなく主体的に参加できるプログラムも加味すること、である。

日時：2012年12月7日 10:30～17:00

会場：埼玉県立近代美術館講堂

主催：埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会

企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

● **川崎市民ミュージアム ユニバーサルなミュージアム体験を作るワークショップ**

「ちょっとどきどき、ちょっとわくわくするミュージアム体験をデザインしよう！」(受託事業)
川崎市市民ミュージアムにおける平成24年度の障害者福祉プログラムの一環として、視覚障害のある人をリードユーザーに迎え、視覚障害者のみならず、すべての人が楽しめる鑑賞プログラムづくりをめざすワークショップを実施した。ワークショップの実施にあたっては、インクルーシブデザインの手法を採用し、ミュージアムの職員を主な参加者とし、若干のミュージアムボランティアを含めて実施。視覚障害者は公募した。今年度は次年度に続く試行的な取り組みとして実施。継続的な取り組みを目指している。

日時：2013年2月24日 13:00～16:30、3月31日 13:00～16:30

会場：川崎市市民ミュージアム

主催：川崎市市民ミュージアム

プログラムコーディネーター、ワークショップ運営・進行：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

担当：半田こづえ、梅田亜由美、太田好泰

● 第16回文化庁メディア芸術祭 「聴覚障害者のメディア芸術鑑賞の可能性」検討会
(受託事業)

文化庁が主催している「文化庁メディア芸術祭」において、聴覚障害者の鑑賞の可能性を探る鑑賞会の実施と、鑑賞体験を踏まえて聴覚障害者のニーズを聞き取る検討会を実施した。メディア芸術祭の展示会場においては、手話通訳付きのギャラリートークおよび個人による鑑賞を実施、後日実施した検討会では、鑑賞体験をヒアリングすることで、今後のメディア芸術鑑賞および美術鑑賞における、聴覚障害者向けプログラムの可能性と課題を探った。

日時・会場：2013年2月23日 10:00~13:00 国立新美術館（文化庁メディア芸術祭会場）
3月22日 18:30~21:30 公益財団法人画像情報教育振興協会会議室

主催：公益財団法人画像情報教育振興協会

企画運営：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

担当：梅田亜由美、太田好泰

7. 調査研究事業

2012年度は新規事業はなし。

8. 出版事業

2012年度は新規事業はなし。

9. 助成事業

(1) 第14回エイブル・アート・アワード

1998年からエイブル・アート・ジャパンが開催する、障害のある作家の発掘と作品発表のバックアップを目的とした芸術活動支援事業。ギャラリー・グラフィカ bis（東京 銀座）とアーツ千代田 3331 内 A/A gallery での展示会の開催を支援した。

◇ 成果：選考された花崎昇平さんの展示会は好評であり、また作品販売の面でも成果がでた。アワードの支援を継続してくれた団体・個人に感謝したい。

◇ 課題：応募者は決して多くはないが、個展にこだわり支援するこの事業の意味を検証していく必要性を感じた（アワードのこれからを考えるトークはこの課題をもとに実施）。

◇

● 「展示会支援の部」の公募

募集期間：2012年6月1日（金）～8月31日（金）

応募者 46 個人・団体

● 「**展覧会支援の部**」の選考会

日時：2012年9月25日（火）13：30～16：00

会場：A/A gallery 内

【**選考委員**】（敬称略、順不同）

岡崎智美（横浜美術館 主任エデュケーター）・サイモン順子（アトリエ・ポレポレ リーダー）・長崎剛志（庭園美術家）・中津川浩章（美術作家／アートディレクター）・高内美和、中山杏子（ともに花王株式会社社会貢献部／花王ハートポケット倶楽部）・松本裕介（松田油絵具株式会社）

【**受賞者**】 第14回「展覧会支援の部」花崎昇平さん（香川県高松市）

「アクリル絵の具・油絵の具 寄贈者」カタノヨシトさん（福島県郡山市）、小林幹夫さん（神奈川県綾瀬市）

● **第14回エイブル・アート・アワード展覧会支援部門入選展 花崎昇平『K i s s』**

全国46件の応募の中から選ばれた、花崎昇平さんの個展を開催した。

会期：2012年12月17日（月）～22日（土）11：00～19：00（最終日17：00）

会場：ガレリア・グラフィカ bis

〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-4 銀座S2ビル1F

協賛・寄付：花王ハートポケット倶楽部、花王株式会社、富士ゼロックス端数倶楽部、富士ゼロックス株式会社、世田谷美術館さくら祭実行委員会、国際ソロプチミスト東京一麻布、松田油絵具株式会社、大内秋子

協力：ガレリア・グラフィカ

(2) **Good Job! 東北プロジェクト**

「福祉をかえる『アート化』セミナー」宮城・福島・岩手 巡回セミナー

「アートを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人の権利」という考えのもと、2002年から開催している「福祉をかえるアート化セミナー」を巡回。東日本大震災以降、生まれている小さくとも生き生きとした「アート化」の実践例を紹介しながら、アートによる「生きる力の取り戻し」と「‘しごと’の復興」を考える内容とした。

事前の調査により、岩手・宮城・福島では、障害のある人たちのアート活動が社会参加や仕事化のためのツールになるということがまだまだ認知されていない、そもそもアート活動の事例が少ないことがわかった。しかし、アート活動への期待や仕事づくりへの希望が多かったため、現地の中間支援組織に協力していただきニーズに応じたセミナーを企画した結果、予想をこえる参加者があり、アンケートによる反響も大きかった。こうした関心を具体的な行動にうつし、協働する必要性を感じたため、今後も東北地方で具体的な事例づくりに取り組みたい。

主催：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

協力：財団法人たんぼぼの家、特定非営利活動法人まる、エイブルアート・カンパニー

助成：財団法人JKA 平成24年度（復興支援）被災者に対する生活支援活動 補助事業

● **宮城セミナー**

2013年1月13日（日）スタディツアー：①宮城県亶理郡山元町共同作業所「工房地球村」、②「六丁目農園」（仙台市）

2013年1月14日（月・祝）セミナー：仙台市市民活動サポートセンター

協力：みやぎセルフ協働受注センター（宮城県受託事業被災障害者就労支援事業所等復興支援体制づくり事業）



● **福島セミナー**

2013年1月18日（金）スタディツアー：①南相馬市小高地区「つながっぺ南相馬」②福島県南相馬市「南相馬ファクトリー」

2013年1月19日（土）セミナー：郡山総合福祉センター「集会室」

協力：被災地障がい者支援センターふくしま（福島県障がい者自立支援拠点整備事業）、エイブルアート・カンパニー

● **岩手セミナー**

2013年3月24日（日）セミナー：いわて県民情報交流センターアイーナ 会議室 501

◇ 成果：調査で明らかになった各地域のニーズを分析し、セミナーの内容を個別に編集し提案できたこと。また、チラシのイメージやメッセージ性にこだわり福祉施設関係者にとどまらない多様な参加者を迎え入れることができた。

◇ 課題：2013年度は宮城・福島で、セミナーを通して出会った人たちとアートを通じた仕事づくりに取り組む。活動に応じて日常的に相談が増えていくことが予想されるため、運営の体制づくりを検証していくことが必要である。

10. その他目的を達成するために必要な事業

（1）法人のウェブサイトのリニューアル・広報物の作成

- NPO法人エイブル・アート・ジャパンのウェブサイトの刷新
- データベースの構築
- A/A gallery のウェブサイトを新設

◇ 成果：当法人のウェブサイトを約20年ぶりに改訂した。

◇ 課題：A/A gallery のウェブサイトの新設、会員・寄付者・参加者・取引先等のデータベースを構築する件は2013年度になる。

（2）インターン・ボランティアの受け入れ

- インターン：多摩大学2名（グローバルスタディーズ学部）、跡見女子大学2名（マネジメント学部）、女子美術大学5名（洋画コース1、立体コース1、メディア1、ヒーリング表現領域2）

● ボランティア：会員1名、ソーシャルワーカー1名、研究者1名、早稲田大学1名、多摩美術大学1名ほか。

- ◇ 成果：2011年度のインターンが、エイブルアート・カンパニーのメイク講座の運営に参加していたことでハーバー研究所へ就職が決まった。入社後もボランティアとしての関わりが期待される。また多様な学生が関わり、事業に緊張感が生まれ、また活気が生まれた。
- ◇ 課題：当法人は常に現場の活動があるわけではないため、事務的な仕事を依頼する準備などで苦労することもあった。

(3) 「臨床するアート」東京セッション

社会が大きく変化するなかで、もう一度生き方や生活のありようについて語り合う場として開催してきた連続セッションが3年目を迎えた。毎回、約15人～30人が参加した。

主催：財団法人たんぽぽの家

協力：アートミーツケア学会／NPO法人エイブル・アート・ジャパン

*全6回を通してコーディネーター坂倉杏介（慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師・当法人理事）

11月1日（木）	神田美子（京都大学病院小児科ボランティアグループにこにこトマト代表）
11月22日（木）	津田広志（フィルムアート社編集長、amuディレクター）
12月6日（木）	鈴木理恵子（女子美術大学准教授）
12月20日（木）	岡原正幸（慶應義塾大学教授）
1月10日（木）	鶴岡真弓（多摩美術大学芸術人類学研究所所長）
1月30日（水）	西村高宏（東北文化学園大学医療福祉学部准教授）

(4) 「Good Job! 振興会」設立にむけてのプロジェクト

「アートやデザインを通して障害のある人の仕事をつくり、自立を支援する」「障害のある人のアートやデザインを産業と結びつけることで、コミュニティに新しい仕事を創出する」ことを目的に、新しく Good Job! 振興会設立に向けてのプロジェクトを実施した。2012年度は、ひと・アート・まちの一環として、Good Job! 展を実施した。

関連資料1

NPO法人エイブル・アート・ジャパンは、奈良のエイブルアート事業事務局と一体となり、運動性と事業性を両立した事業展開をめざしている。2012年度に実施されたエイブルアート・プロジェクトの事業から、全国的な拡がりや交流に関わる事業を記載する。

エイブルアート・プロジェクト【財団法人たんぽぽの家】

1. アートプロジェクト企画運営

展覧会やワークショップ、総合的なアートプロジェクトの企画運営を行った。

(1) 可児市文化創造センター「エイブルアート」展企画運営

4回目を迎える展覧会。岐阜市在住のアーティスト中原健太郎さんの作品を核に構成し、東海地域（岐阜、愛知、静岡、三重）の障害のある人たちの個性豊かな表現を紹介した。

- ・主催 可児市
- ・会期 2012年7月20日（金）～29日（日）
- ・会場 可児市文化創造センター 美術ロフト

(2) 奈良県障害者芸術祭「HAPPY SPOT NARA」企画運営

2回目を迎える、地元奈良でのアートプロジェクト。世界遺産である東大寺で奈良県内および東北の障害のある人たちも参加した「Big 幡プロジェクト」、病院や小学校、養護学校の訪問教育の現場にアーティストが訪れる「アートクル！ドキュメント」、鑑賞ワークショップを実施した。

- ・主催 奈良県
- ・実施運営 奈良県障害者アート創出事業実行委員会
- ・会期 2013年2月7日（木）～2月17日（日）
- ・会場 奈良県文化会館展示室、東大寺、奈良町界限、奈良市ならまちセンターほか

(3) ろうきんグッドマネープロジェクト

近畿労働金庫との共同プロジェクトで12回目を迎えた。大阪・中之島でのアートプロジェクト、北浜界限の近代建築ビル群での作品展示、プロジェクトを振り返るシンポジウムを開催した。

①展覧会

● 存在と生活のアート

会期 2013年1月22日（火）～2月2日（土） 会場 船場アートカフェ

● Good Job!

アート×デザインをキーワードに、暮らしを楽しくするデザインプロダクトの展覧会を実施した。

会期 2013年1月22日（火）～2月2日（土） 会場 de sign de

②コミュニティアートプロジェクト

● アート・ミーツ・ビルディング

大阪を代表する近代建築ビルに、オーナーが自ら選んだ障害のある人の作品の複製画を展示し、まち歩きとともに楽しめるプロジェクトを実施した。

会期 2013年1月22日（火）～2月2日（土） 会場 北浜界限の近代建築ビル群

*上記①②は2月4日(月)～8日(金)まで、大阪市役所正面玄関ロビーに巡回した。

③シンポジウム「コミュニティアートからうまれた Good Job!」

各地の「ひと・アート・まち」の協力者の現在を伝えるリレートークと、ILO(国際労働機関)の林雅彦さんによる障害のある人の生きがいと働きがいについての講演、BEPPU PROJECTの山出淳也さんによるコミュニティにおけるアートの役割についての講演につづき、エイブルアート・ムーブメントの提唱者である播磨より障害のある人の仕事を支えるプラットフォーム「Good Job!」の提案が行われた。

会期 2013年1月24日(木) 会場 大阪市中央公会堂 中集会室

(4) かんでんコラボ・アート21 特別協力

公募展のビジュアルイメージづくり、審査会の協力を行った。

作品募集:2012年5～9月 作品審査:2012年9～11月

表彰式および展覧会の実施:2012年12月4日(火)

(5) リブドゥコーポレーション アートプロジェクト「生命の森」

Livedo Medical 愛媛県新居浜工場に「いのちの森」と題した合計20点の作品が掲げられ、2013年3月15日に竣工式を迎えた。エントランスの大壁画はたんぽぽの家アートセンターHANAの山野将志さんによる3800×1500mmサイズの5連作で、工場内にはエイブルアート・カンパニーのアーティストのファブリックパネルを納品した。

2. 教育普及・人材育成

障害のある人のアート活動をマネジメントする支援者を育成するためのセミナーや、障害者アートを通じた新しい価値を提案するフォーラム等を開催し、次世代の人材を育成した。

(1) 福祉をかえる「アート化」セミナー、Good Job セミナー

新潟市、鳥取県、佐賀県、奈良県からの受託事業として実施した。NPO法人エイブル・アート・ジャパンが東北支援として実施するGood Job セミナーを共催で実施した。

会期	開催地	概要
2012年10月26日(金)27日(土)	新潟市	主催 新潟市 企画 財団法人たんぽぽの家
2012年11月17日(土)18日(日)	鳥取市	主催 NPO 法人鳥の劇場 企画協力 財団法人たんぽぽの家
2012年11月23日(金)	佐賀市	主催 佐賀県 企画協力 財団法人たんぽぽの家 ※障害者アートマネジメントセミナーとして実施
2013年2月17日(土)18日(日)	奈良市	主催 財団法人たんぽぽの家 ※奈良県障害者アート人材バンク育成事業

(2) 「臨床するアート」東京セッション (AAJ 報告に詳細記述)

(3) 「存在と生活のアート」展覧会 (AAJ 報告に詳細記述)

(4) 障害とアート研究会 (AAJ 報告に詳細記述)

3. 調査研究・基盤整備

(1) エイブルアートのウェブサイトでの情報発信、アーカイブ

7月よりエイブルアート・メールニュースを配信している。

(2) 海外交流

アジア・太平洋地域の障害者アートに取り組むネットワーク団体と情報を交換した。

①韓国・Different and Special 違って独特展

韓国・米国・日本の障害のある人の作品展の開催に協力した。

会期 8月1日(水)～10月7日(日) 会場 京畿近代美術館(韓国/京畿道)

- シンポジウム1: 出展団体がそれぞれ発表するシンポジウムを開催。日本の障害者アートをとりまく状況について報告した。

会期 9月20日(木) 会場 京畿近代美術館

- シンポジウム2「発達障害のある人の芸術文化の可能性」: 韓国では国家レベルで障害のある人のアートセンターづくりが構想されている。障害者アートの社会のなかでの役割やアートを仕事にする仕組みづくりなどを紹介した。

会期 9月21日(金) 会場 E-room センター(ソウル)

②アメリカ・未来への評価: 演劇、ダンス、障害、教育、包摂に関するリーダーの国際会議

ケネディセンターとワシントンVSAが主催する、障害のある人のパフォーマンスアーツに関する国際会議。パフォーマンスアーツ分野でのグローバルネットワークにむけての議論が交わされた。

会期 9月11日(火)～13日(木) 会場 エンバシーアレキサンドラホテル(ワシントンDC)

関連資料2

東日本大震災復興支援プログラム

たんぼぼの家とネットワーク団体による東日本大震災復興支援プログラムは2年目を迎えた。復興支援活動は、私たちの生きるこれからの社会づくりにも直結する厳しくも学びの多い活動である。東北の文化に配慮し、人的交流を大切にしながら、被災地で必要とされるプログラムを柔軟に実施してきたことでエイブルアート事業のミッションが静かに浸透しつつあり、支援ニーズも高まっている。宮城現地スタッフおよび東京事務局スタッフが主体となって活動を展開した。

①設置規則、運営委員会、配分審査委員会の設置

貴重な支援金や寄付金、また、チャリティーイベントや事業の収益金などを「笑って基金」として蓄え、主にたんぼぼの家が行う復興支援活動に充てるため、設置規則、運営委員会、配分審査委員会を設け、有意義に活用できるよう基盤整備した。

②スタッフ研修兼復興支援ツアー「笑って!東北・宮城」

○6月28日(木)～30日(土): たんぼぼスタッフ3名、奈良たんぼぼの会1名、企業2名(大阪1・京都1)、施設職員1名(宮崎)、アテンド2名(宮城1・東京1)

○8月8日(水)～10日(金): たんぼぼスタッフ4名、一般2名(奈良1・東京1) エイブル・アート・ジャパン1名(東京)、アテンド2名(宮城1・東京1)

○おもな訪問先：

石巻市／NPO 法人輝くなかまチャレンジド「地域活動支援センターこころ・さをり」、
山元町／GRA 新食糧供給基地建設のための先端技術展開事業、山元町共同作業所「工房地球村」（お
好み焼きパーティ実施・「わたぼうし&地球村のうた」コンサート実施）、山元町民俗資料
館にて民話の会による「大津波」の話

仙台市／ハート&アート空間ビーアイ、せんだいメディアテーク、六丁目農園レストラン、社会福
祉法人円「まちの工房まどか（旧称：まどか荒浜）」（「繭から糸を挽く」ワークショップ実施）、
仙台七夕 ほか。

③復興支援プロジェクト（エイブルアート・カンパニーチームによる）

活動のミッションは‘アートによる生きる力の取り戻し’と‘仕事の復興’とし、2012年5月から
宮城県に現地スタッフを1名派遣し、福祉施設の支援活動を強化した。アート活動等による心身の健
康の取り戻しや、仕事の復興として商品開発を支援すると並行し、重点的活動として「工房地球村」
（以下、地球村）のコミュニティカフェ立ち上げのソフト支援を実施した。

支援先1 山元町共同作業所「工房地球村」（宮城県亶理郡山元町）（註1）

2011年度はおもに商品開発を支援してきたが、「地域に貢献したい」という夢
を実現するために現地スタッフを1名を常駐させて、コミュニティカフェの立
ち上げ支援を行った。11月15日のオープニングには全国から100名をこえる
来客があった。小さなトレーラーハウス型のカフェだが、町の憩いの
場として障害のあるメンバーたちが笑顔で連日お客さまを迎えている。



●コミュニティカフェ設置に向けての主な活動

- カフェ運営委員会「ほっと委員会」運営
- メンバーの社会見学活動
- スタッフカフェ会議&研修
- 「カフェ地球村」のブランディング
- 地球村のプログラム開発・価値づくり・ネットワークづくり
- 広報～ホームページをリニューアルし山元町を全国にPR。
<http://kobo-chikyumura.com>
- 運営主体の移行
- 絵画ワークショップのリーダー養成
- 特産品をデザインした新しい製品の開発と流通支援（継続）



支援先2 「多夢多夢舎中山工房」（仙台市青葉区）

米袋を利用した商品の新ブランド「tam tam dot」開発（註2）

多夢多夢舎に集う人たちの明るさ、楽しさ、あたたかさが、商品を通
して人々に伝わるようなものづくりをめざした。少人数のスタッフ体
制でのメンバーとの仕事のあり方・方法を提案している。

○地域の有志の方々と「リボンヌ手芸部@仙台」（障害のある人たちのつくったものを再生=Re-born さ
せて社会へとつなげる架け橋プロジェクト）を発足（2012年7月）。都市型の仕組みとして、制作支援
チームとの連携を模索している。



○多夢多夢舎中山工房 10 周年記念イベント「tamtam10」の企画運営を支援。

対象施設のスタッフが中心となり企画運営を行えるよう、プロジェクトマネジメントのノウハウを支援しました。2012 年 11 月 23 日～12 月 1 日開催、新商品「tam tam dot」の展示販売、ランチの提供、ダンスなどのライブ開催。

支援先3 「まちの工房まどか」(宮城県仙台市太白区)

楽しみながら仕事をしよう！～まどかカレンダーの制作 (註2)

“復興特需”ともいえる商品の大量注文にスタッフが疲労し、また津波により全壊した施設が新築され、新しい拠点で新しい取り組みをしてみたいと支援の要請があった。

○絵画ワークショップを行い、楽しみながら絵を描き、また描くことが仕事につながるという実例をメンバー、スタッフが実感できるように商品開発としてカレンダーづくりに取り組んだ。

○ノウハウが現場に蓄積されるよう、地元のクリエイターや印刷所をつなぎ、1,300 部作成し完売した。メンバーのアートを軸にして、外注加工で制作する商品の開発プロセスを体験していただいた。施設とクリエイターは次期の展開を検討している。



支援先4 「のぞみ福祉作業所」(宮城県南三陸町)

牛乳パックによる紙製品の“のぞみブランド化”事業(註3)

宮城県の被災事業所連絡会議に参加したことをきっかけに訪問とヒアリングを実施した。当面の間、仮設のプレハブで牛乳パックを使用した再生紙のものづくりに取り組むため、ここにデザインの思考と南三陸町という地域力を持ち込み、製品のブランド化試行事業を行っている。ワークショップの開催によりメンバー&スタッフの意欲が上がっており、5 月末のチリ政府から寄贈されるモアイ像のイベントに合わせ、ファンタジーな土産物を開発中。



④その他の事業 ‘創造する力を仕事に’ 共創のネットワークへ

たんぼぼの家、エイブル・アート・ジャパンが一体となり、東北地方の障害のある人や支援者たちとダイナミックな交流や活動を推進している。2013 年度は、アートを軸にした障害のある人の社会参加モデル事業を福島で実施し(註5)、「Good Job! プロジェクト」が仙台に巡回する。「Good Job! 東北プロジェクト」と称して、①アート×デザインによる仕事の開発 ②現地の



中間支援組織のエンパワーメントを実施する。目的は「アートを通して生きる力を取り戻す」「アートやデザインを通して障害のある人の仕事をつくり、自立を支援する」「障害のある人のアートやデザインを産業と結びつけることで、コミュニティに新しい仕事を創出する」ことをめざす。

註1 武田薬品×日本 NPO センター協働事業 「タケダいのちとくらし再生プログラム」助成、註2 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート基金」助成、註3 「NPO 法人ジャパン・カインドネス協会」助成/NPO 法人パブリックリソースセンター、註4 NPO 法人エイブル・アート・ジャパン主催、財団法人 JKA 平成 24 年度(復興支援)被災者に対する生活支援活動補助事業、註5 武田薬品×日本 NPO センター協働事業 「タケダいのちとくらし再生プログラム」助成継続助成